

評価者	都市整備部長	樋田 浩一
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	下水道・河川	施策の方針	下水道資源の有効利用
目標とすべきまちの姿	終末処理場で発生した処理水や汚泥の資源化が効率的に実施されており、より効率的な下水道事業を進めています。 また、終末処理場等の建物上部の未活用スペースは市民により多目的に利用されており福利厚生にも役立てられています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	45.6%	平成29年度(2017年度)	32.2%	平成28年度(2016年度)	30.0%
	平成27年度(2015年度)	33.6%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.3%	1.3%	0.0%
	ちょうどよい	0.2%	30.1%	1.5%
	効果不十分	1.0%	2.5%	10.9%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.5%	0.2%	0.2%
	ちょうどよい	0.4%	44.6%	1.9%
	効果不十分	1.8%	3.5%	10.0%

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.5%	1.2%	0.7%
	ちょうどよい	0.4%	44.9%	1.6%
	効果不十分	1.2%	2.0%	12.3%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない	
仕事の効果	必要以上の効果	0.3%	1.1%	0.4%
	ちょうどよい	0.4%	42.6%	1.1%
	効果不十分	1.1%	2.7%	10.3%

平成27年度(2015年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	16.7%	29.9%	1.5%	51.9%
平成29年度(2017年度)	18.5%	42.9%	1.9%	36.7%
平成28年度(2016年度)	18.3%	45.5%	1.6%	34.6%
平成27年度(2015年度)	17.3%	41.9%	1.7%	39.1%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

①下水道資源有効活用について検討を行う。(小事業なし)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

①下水道資源を有効活用により、効率的な下水道事業の運営に資することになる。(小事業なし)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年 度 (2018年 度)	平成29年度 (2017年度)	平成30年 度 (2018年 度)	令和元年 度 (2019年 度)	平成 30年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)		事業 内容	予算 規模

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】

①汚泥焼却灰について建築用資材として有効利用を図った。また、中水の利用についても、引続き武道館のトイレ用水や場内の機械洗浄用水として利用した。(小事業なし)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

汚泥焼却灰を建築資材として利用することで処分費の低減に努めた。(小事業なし)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

- ・汚泥焼却灰については、建築用資材として有効利用を図り、中水については、継続して検討する。(小事業なし)
- ・用地や施設の一部を活用した太陽光発電、小水力発電については、現段階では費用対効果が十分に得られないため今後の社会情勢や技術革新を注視していく。(小事業なし)
- ・処理場の建物上部利用施設の計画については、スポーツ施設の整備を検討していたが、計画検討時から時間が経過したため、改めて地元と協議を行い利用用途について検討する。(小事業なし)

(7)令和元年度(2019年度)の目標

- ①下水道資源有効活用について社会情勢の変化や技術革新の状況、国の動向等を注視していく。(下水道資源有効活用について検討を行う。(小事業なし))
- ②山崎下水道終末処理場の西側建物上部の利用用途について、地元自治町内会等と協議を行う。(小事業なし)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①下水道資源を有効活用により、効率的な下水道事業の運営に資することになる。(小事業なし)
- ②建物上部の有効活用により、市民の健康と福祉の増進に資することになる。(小事業なし)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	事業名		単位							指標の傾向	備考
指標の内容	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)				
当該指標を設定した理由	目標値										
	実績値										
	達成率										

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・指標がまったくないのは好ましくない。昨年度での質問にある「建築用資材として有効利用を図ったのであればそのデータがあるはずではないか？」に対する回答が、「汚水処理で発生した汚泥焼却灰は、100%建設用資材原料として有効利用を図っている」、旨コメントに入っている。
- ・未利用エネルギーの活用については、費用対効果を得ることが難しいのであれば、根拠などを示してほしい。



指摘への対応、コメント等

- 評価対象事業がなく指標の設定はないが、汚泥焼却灰を100%建設資材として有効利用を図っていきます。
- 未利用エネルギーの利活用については、様々な方法があるが、設備投資や運転・維持管理費等に見合った収益があること、長期に渡る安定した受入先の確保が必要であるなど、現時点で事業性が高くすぐにも着手すべき施策がないのが現状です。

質問

- ・終末処理場で発生した処理水や汚泥の資源化が効率的に実施とは具体的にどのようなものか。終末処理場等の建物上部の未活用スペースの利用実態、および検討はどのようなものか。



質問に対する回答

- ・下水を処理する過程で発生する、熱等のエネルギーを有効活用し効率的に資源化するもので、具体的には汚泥燃料化、消化ガス発電、小水力発電、空調熱源への利用や更なる処理水の有効利用等が考えられます。
- ・鎌倉市では処理場の上部に武道館を建設し利用しています。他の公共団体では、広場やテニスコート等のスポーツ施設として利用している例が多く、山崎下水道終末処理場の西側建物上部の利用について検討していきます。

下水道資源の有効利用

評価できるところ

・汚泥焼却灰を建築用資材として有効利用した。

		評価の内訳		
取組		0	2	6
効果		0	1	7

委員会の評価
-

課題

・平成30年度の取組の評価について、すべてが適切と評価しているが、前年に引き続き、指標値を出さずに妥当であったとは判断できない。
 ・「処分費の低減に努めた」とあるが、実際に低減されたのか確認出来ない。

提言

・「汚泥焼却灰を建築資材として利用することで処分費の低減に努めた」のであれば、その実績値を指標としてはどうか。もっと建築資材で活用していることをPRすべきではないか。
 ・平成30年度の取組の評価について、すべてが「適切」と評価しているが、前年に引き続き、指標値を出さずに妥当であったとは判断できない。
 ・この事業について、市民意識調査によると45.6%が認知していないこと、それにより今後の進め方も51.9%が無回答である。この結果を認識し、処理水、汚泥の資源化をしていることをもっと市民に知ってもらうべき。

質問

・終末処理場で発生した処理水や汚泥の資源化が効率的に実施とは具体的にどのようなものか。終末処理場等の建物上部の未活用スペースの利用実態、および検討はどのようなものか。
 ・建物上部の利用については、検討はいつまで続くのか？何を検討しているのか？早急に論点を整理し、実施に移すべきではないか。